

令和5年度 大野町立北小学校通信



# 輝くひとみ

2月号

## 自然災害、その対応と備え

新しい年になって、すでに1か月が過ぎ、学校生活は今年度のまとめの時期となりました。どの学年も、「3学期は次の学年の0学期」を意識し、『アイくんの3行動』である「しんけん授業」「先どりあいさつ」「もくもく掃除」をやり切るための取組を始めました。特に、6年生は卒業式に向けて、5年生は伝統を引き継ぐ会に向けて、仲間とともに準備を進めています。私たち職員は、子どもたちが目指す姿に近付くために粘り強く仲間に働きかけ、それに応えようとする姿を認め、励ましていきたいと思えます。

さて、1月1日に能登半島地震が起こりました。ニュースで被災された方々が生活環境のよくない中、助け合いながら生活してみえる様子を見ると1日も早い復興を願わずにはいられません。私たちにできることはいくつかあると思えますが、まずは、身近な人々に思いやりの気持ちをもって毎日を過ごすことが、被災地を応援することにつながっていくと思えます。そこで、始業式には、この大地震に触れ、「自分の命を大切にすること」「今、自分の周りにいる家族や仲間を大切にすること」を話しました。

また、北小では、毎月防災訓練を行っています。様々な状況設定で予告なしで行うので、子どもたちには緊急時に取るべき身構えや対応がよく身に付いていると思えます。しかし、震度7もの地震が起こったときは、想定外の事態が起こることが考えられます。先日、職員研修で東京消防庁作成の震度7の地震が起こったときの学校内の様子を動画で見ってみました。児童はもちろん、職員も立ってられず、頭を抱えて床に這いつくばるのが精一杯であることが分かりました。

「備える」は、「心」と「行動」の両面があります。しかし、「備え」が万全ならよいかというと、それだけでは足りません。一番大切なことは、そのとき自分がどのような判断をし、どのように行動するかです。まず、我が身の「命」を守るために、最もよいと思われる行動を速やかにとることです。3学期中に、1時間かけて防災訓練を行います。校内で逃げ遅れた児童を避難させることと、早く避難できた児童が取るとよい行動を考えることに焦点をあてた訓練を工夫していきます。

自然災害は、場所や時間帯を問わずに起きます。ご家庭や園でも、いざというとき最も安全な避難場所はどこか、近くに大人がいなくてもどんな行動を取るとよいかなどを話し合ってみてください。